

13

小児保健水準の向上

目標

目標 1	具体的な事故防止の知識を学び、家庭内の危険な物、場所を見直して子どもの事故防止に努める家庭を増やす
目標 2	心肺蘇生法を学び、応急処置ができる人を増やす
目標 3	乳児をうつぶせ寝にする人をなくす

指標

	現 状	目 標
指 標 1 子どもの事故防止対策を実施している家庭の割合	75.2%※	100%
指標2-1 心肺蘇生法を知っている親の割合	15.1%※	50%
指標2-2 心肺蘇生法を適切にできる親の割合	10.0%※	50%
指 標 3 乳児期にうつぶせ寝をさせている親の割合	0.3%※	0%

※「子育てに関するアンケート」(平成 23 年度)より

市民のとりくみ

□ 具体的な子どもの事故防止の方法や心肺蘇生法を学び、家庭内の危険な物、場所を見直して子どもの事故防止に努めましょう

乳幼児は、事故の危険性のある物や場所を自分で認識することは困難です。親を中心とする周囲の人が事故防止の知識を学び、事故を未然に防ぎましょう。また、事故が起きた時のために心肺蘇生法を積極的に学びましょう。

□ 乳児のうつぶせ寝をなくしましょう

乳幼児の死亡原因の上位である「乳幼児突然死症候群(SIDS)」については、うつぶせ寝が発生要因の一つとする研究結果があります。乳児をうつぶせ寝にしないようにしましょう。

市のとりくみ

- 具体的な事故防止方法や関係機関と連携した心肺蘇生法の応急処置について、学習できる機会を設けます。
- 「乳幼児突然死症候群(SIDS)」についての周知・広報に努めます。

健康コラム

SIDS

=

乳幼児突然死症候群とは？

(Sudden Infant Death Syndrome)

それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく睡眠中に突然死亡する病気です。原因は、まだわかっていません。日本では、およそ6,000人～7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっていると推定されています。生後2か月から6か月に多く、まれに1歳以上でも発症することがあります。

SIDSから赤ちゃんを守るための3つのポイント

うつぶせ寝は避ける・たばこはやめる・できるだけ母乳で育てる

健康コラム

心肺蘇生法とは？

傷病者の胸と腹部の動きを見て、普段どおりの呼吸があるかを10秒以内で確認し、反応がなく、普段どおりの呼吸をしていない場合は、胸骨圧迫を開始！
圧迫と圧迫の間は、胸が元の高さに戻るように十分に圧迫を解除します。
胸骨圧迫を開始したのち、できるだけ早く人工呼吸を実施します。

	0 歳児	1 歳～中学生まで
胸骨圧迫 1 分間に 100 回以上のテンポ	口対口鼻人工呼吸	口対口人工呼吸
人工呼吸 1 回 1 秒かけて 2 回	2 本の指で、胸の厚みの 1/3 程度の深さ圧迫	両手または片手の付け根で、 胸の厚みの1/3 程度の深さ圧迫

胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ(30:2のサイクル)を救急隊に引きつぐまで絶え間なく続けます。

これまでの経過と課題

子どもの事故防止対策を実施している家庭の割合

子どもの事故防止対策を実施している家庭の割合は75.2%で、減少傾向にあります。乳幼児は、事故の危険性のある物や場所を自分で認識することは困難であるため、親を中心とする周囲の人が事故防止の知識を学び事故を未然に防ぐことが重要です。

乳幼児を持つ保護者に対して子どもの発達段階に応じた具体的な事故防止方法を効果的に普及啓発し、乳幼児を危険から守っていく必要があります。

心肺蘇生法を知っている親の割合

心肺蘇生法を知っている親は15.1%、適切に行うことのできる親は10.0%と低い割合であるため、心肺蘇生法の知識を普及啓発し、多くの人が適切に実行できるようにする必要があります。

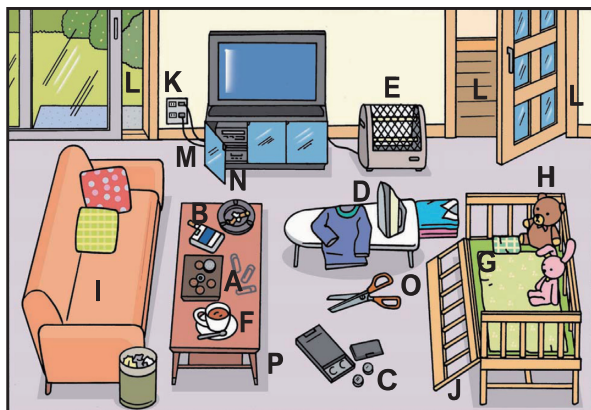
乳児期のうつぶせ寝の割合

乳児期のうつぶせ寝の割合(0.3%)が0%になるまで、「乳幼児突然死症候群(SIDS)」についての知識の普及啓発を続けていくことが大切です。

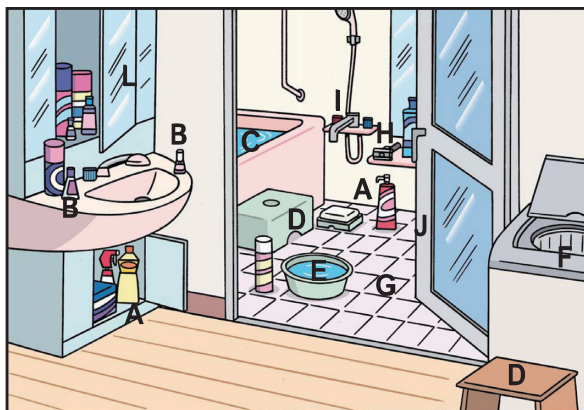
健康コラム

子どもの安全を守ろう

子どもは日一日発達し、まわりのものに何でも興味を示しますが、危険性については十分に理解していません。子どもの周りには危険がいっぱいです。特に家の中は安全な場所であるように思われますが、事故のかなりの部分は意外にも家庭内でおきています。家庭内を一度チェックし、親や家族のちょっとした気配りで子どもの事故防止対策を！



誤飲…… テーブル上のクリップやコイン(A)
タバコや灰皿(B)・ボタン電池(C)
やけど…… アイロン(D)・ストーブ(E)・コーヒーカップ(F)
窒息…… ベビーベッドとマットのすき間(G)・ぬいぐるみ(H)
転落…… ソファ(I)・ベッドの柵(J)
感電…… コンセント(K)
はさむ…… ドア(L)・ビデオデッキの出入口(M)
ビデオデッキの収納台の扉(N)
切創…… はさみ(O)
転倒…… テーブルの角(P)



誤飲…… 洗剤(A)・化粧品(B)
溺水…… 浴槽(C)・椅子(D)・洗面器(E)・洗濯機(F)
転倒…… 浴室の床(G)
切創…… カミソリ(H)
やけど…… 蛇口(I)
はさむ…… ドア(J)

参考：子どもに安全をプレゼント(国立保健医療科学院)

乳幼児期の事故防止対策をより効果的なものにするため、救急医療や消費者教育、交通安全等の多様な分野で連携を図り、家庭だけでなく社会全体で子どもの安全を考えていくことが必要です。様々な視点を総合的に取り入れた対策を実践することが、子どもの健やかな成長と安全・安心な生活環境の創出につながります。